

# 崇福寺報

壺 中 日 月 長

住職・東海康道

中国後漢の時代、曹長房という役人が汝南という町に赴任していた時に、壺公という葉売りの老人が、毎日店を閉めると壺の中に入れてしまうのを楼上から見つ、大変驚きました。不思議に思った長房は壺公と親しくなり、一緒に壺の中に入る事になったのです。中は広大な宮殿で壺公から盛大な饗応を受け、しばらくして辞去したのですが、数年の時が流れており、家人達ともども驚いたというのが原典です。

これは神仙思想の理想郷を表しており、仏教、特に禪の中でもよく使われます。

一心の自覚の世界に入ると、そこは時間・空間を超えてしまった状態になり、天地の悠久

（日月長し）を感じるという意です。左の色紙は、新管長、又玄窟（綱干龍門寺住職、神戸祥福寺前任職河野太通）老大師猥下の御染筆です。



（壺公の御染筆）  
又玄窟の御染筆  
新管長の御染筆

老大師は、ラックの活動や、妙心寺派の戦争責任の問題提起（後に、細川内局や宗議会で謝罪文等を内外に発表、神戸大震災の時の早期ボランティア活動等に、一心の御自覚の世界観で生

第四十二号

発行日 平成二十二年七月一日  
発行所 神護山・崇福弘濟禪寺  
（岐阜市長良崇福寺町二）  
www.soufukutempel.com  
www.soufukutempel.com  
印刷所 東海康道社

きてこられた老師様です。特に「壺中日月長」の境涯でおありになったのではないかと、御推察させていただいております。

現代的諸問題について、はっきりとお考えを示していただけたら、数少ない管長猥下ではないかと感じております。

私ごとで恐縮ですが、還暦の小寮を四月十八日に開かせていただきましたが、赤いちゃんこを着て、今まで見えなかったり、聞こえなかったことが初めて鮮明になってきました。挨拶で、「今までは、あつとつという間の出来事でした。」と述べさせていただきました。崇福寺の改革と保持という一心のみであった様な気がします。

勿論、管長様の御教誨とは程遠いのですが……。還暦の現在まで、お世話になりました。

## 自死（自殺）予防

— 私たちができること —



人間関係のストレス、多重債務、リストラ、介護疲れ、子育て疲れ、過労……など、様々な要因が絡まり、追い込まれた末の自死（自殺）が圧倒的です。うつ状態に近い事も多く、冷静な判断ができないのです。

健康な状態の時から、「お互いに一人ではなく、心配してくれる人が周りにいるんだよ。」という気持ちを共有し合うことが大切です。

周りが早くに気づくような人間関係の構築が第一です。特に男性は、家族にも誰にも相談できない場合が多いようです。

## 自死（自殺）予防のサイン



①表情が暗く、元気がない

②仕事のミスや効率の低下

③反応が遅い

④落ち着きがない

⑤遅刻・早退・欠勤(定席)増加

⑥閉じこもりが多くなる

⑦身体の不調の訴えが増える

⑧酒量の増加

以上のようなシグナルの発信に、いかに気付くかが大切なことです。

でも、周りにも全くシグナルが伝わらないこともあり、大変難しい問題です。

## 自死で大切な人を亡くした人へ

①身近な信頼できる人に相談

②儀式の執行(僧侶等にお願いする)

・現実を受け入れる手助け

・亡くなった人の人生の意味を見い出す手助け

・つらさ、悲しさの表現

・悲しみの分かち合い

③水分を取り、一口でも食べる

④感情を表に出す

⑤自責の念が生じたら、あせらないで、自分の状況と照らし合わせながら、時間を

かけ吟味していく。

→

ぎりぎりの状況で、できるだけの努力を払えたと思えるようになる!!

## 仏教者として

僧侶として、「生死」をどこ

まで発信し続けてきたか、又、

自死の予防に取り組んできたのか、はたまた自死によって大切な人を亡くされた御遺族に本当にお役に立ってきえたのかと問われれば、汗顔の至りです。

①辛い現実を受け止める最善の方策は、自分の悲しみや苦しみを涙や言葉で表すことです。

②家族、親族、友人、僧侶達を信頼し、任せましょう。

③立礼は風習なので、無理して行なう必要はありません。

椅子席で体を休めましょう。

※どうしてもという場合には、親族等を代理にすれば十分です。

④小さな子供にもごまかさな

いで、亡くなったというこ

とを話し、「私たちが君を守

るからね。」と伝えて下さい。

⑤自死した人が成仏しないと

いうことは、あり得ません。

仏様は、総ての人を分け隔

てなく救ってくださいます。

⑥葬儀の後、急に悲しみが訪

れたりしますが、誰かに「助

けて」と求めてみて下さい。

⑦怒りや恨みを感じたら、抑

えないで、外に出して下さい。

(言葉・文章)

⑧気持ちが悪く感じたら、

故人への手紙を書いた

り、大切な形見の洋服をリ

フォームしたりしてはどう

でしょうか?

⑨七日毎に四十九日と百ヶ日

↓一周忌と経る毎に、生き

る力が戻ってくるのが普通

ですが、意欲が出ない場合

には、左記に電話を!!

◆◆◆◆◆ 参 照 ◆◆◆◆◆

⑩千の風の会(岐阜県自死遺族の会)

☎〇五八二七二二二(内線三二二)

⑪リメンバー 名古屋自死遺族の会

☎〇九〇一八五四四一九四〇八

◆ 〇〇〇 remember\_nagoya@yahoo.co.jp

⑫二つの居場所(三重県遺族支援会)

☎〇九〇一四四四七一一八四〇

◆ 〇〇〇 cocorollssy@yahoo.co.jp

以上は、住職としての自死遺族に対する考え方を述べましたが、自死対策について少し触れたいと思います。

## 自死対策

周りの方が気付くことも勿論大事なことです。何と云っても一番大切なことは、自分で自己の変化に気付く、助けを早目に求めることです。

・気分が重く、元気がない。

・イライラし、眠れない。

・集中力が無く、決断が下せない。

・物事を悪く考え、死にたく

なる。

・食欲がなく、のどが渇く。

・身体がだるく、疲れやすい。

◆◆◆◆◆ 参 照 ◆◆◆◆◆

▼自殺防止ネットワーク風(ネット相談)

▼いのちの電話

☎〇五八二七二二二(岐阜)

(夜七時～十一時)

☎〇五八二七二二二(名古屋)

(二十四時間)

※崇福寺の方へも御相談下さい。

☎〇五八二二二二二(文責・住職)



## 庭と土塀についての御質問

檀家の藤吉宗之様より、土塀と庭の歴史についての御質問がありました。

寺伝によりますと、初代の土塀は関白一乗兼良(一四〇二〜一四八一年)寄贈と伝わっておりますが、今から二百五十年頃前に、新しく造り換えられた様です。この土塀はその頃の物ではないかと思うのですが……。因みに、本堂前の土塀は、先代和尙が建立しなおしたものです。



《藤吉宗之氏寄贈写真》

本堂前の庭についてお答えします。先代(第二十一世恵遠)和尙が、昭和四十年頃に作庭したものです。昭和三十七年に作庭された京都紫野・大徳寺塔頭の瑞峯院庭園が、当山本堂前庭の本歌になります。

石組は三尊様式で、立石は「独坐大雄峯」(独坐大宇宙のこと)で、我と宇宙は隔絶することな

く、「一心同体であるという意味」を表しており、今いる所を大雄峯と思い、相徳の分別を排除して、一瞬一瞬を生き抜くことを教えております。(文責・住職)



《同氏寄贈写真》

## ピハール長良公開講座

五月十八日、長良医療センター副産科診療部長の川越市郎先生の「胎児は人です、お腹の赤ちゃんだって、亡くなることがあるんですよ。」という講座を聞いていただきました。

産科のみで、副産科が難しい患者さんに特化し、主治医制ではなく全スタッフで診るという体制を取っておられます。そのことによって、全国から若い先生方が賛同して集まってくれたそう。休みもきちんと取れるようになったそうです。その他にも岐阜市内には割合多くの産婦人科が多く、たらい廻しはな

いそうです。岐阜市へ妊婦さんを誘致してはどうでしょうか？

全国放送やメーテレ『どですか』、中日新聞特集等で活躍されておられます。(文責・住職)



川越市郎先生

## 三十五周年御開帳(四月四日〜十八日)

六年ぶりの御開帳が開かれました。当会の会長として迎える初めての御開帳だったので、心配致しましたが、パスは減ったものの、個人のお参りが大変多かったようです。前会よりもお参りが増えたようでした。



皆様、ありがとうございました。(文責・住職)

## 先住職(二十一世恵遠和尙)十三回忌

平成十年八月二日に遷化した、二十一世恵遠和尙の十三回忌を、五月九日に開山毎歳忌と合斎で厳修致しました。

当日は、名古屋の徳源寺住職・論典嶽(江松軒)・老大師の導師の本、三十名の僧侶の他、責任役員、地区総代、親類等二十四〜五十名のお参りをいただきました。

改めて、先代和尙の御蔭様で、私が住職として思う存分、働かせていただけたということ、を、再認識させていただく機会となりました。(文責・住職)

## 崇福寺学徒(子弟)僧堂へ!!

岩戸の慈眼寺御住職が昨年遷化されましたが、生前の御遺言もあり、お孫さん千種俊上君を崇福寺学徒(子弟)にして、大山瑞泉寺僧堂へ掛搭させました。





## お寺からの手紙⑩

お盆ってというのは何でしょう？

それは、ご先祖さまをお迎えして、ご供養する習わしのことなんです。

お釈迦様の時代、一番神通力(普通の人間にはない不思議な力)のある目連様が、地獄で逆さ吊りにされているお母さんの姿を見て、どうすればお母さんを助けることが出来るかお釈迦様に相談すると、夏の修行の終わる七月十五日に、お坊さん達にお供えをしなければいけないことでした。その結果、目連様のお母さんは救われたそうで、これがお盆の初まりです。

今では八月か七月の十三日頃、お墓へご先祖様を皆でお迎えに行き、床の間に新しいお部屋を作り、お供えなどをして、楽しく過ごしてもらおうのです。

ご先祖様のお蔭で、今の自分たちがいるということを確認

認し合い、感謝の気持ちを忘れないためにあるのが、お盆なんです。

もちろん、親類の人達や回りの人達にも感謝できるような、心のゆとりができるといいですね。

## 高等布教講習会を受講して

別荘・東海宏徳

五月十一日から二十五日までの十五日間、本山妙心寺にて高等布教講習会を受講しました。講習会という名前ですが、布教師の資格を得るための試験です。布教師とは、本山から派遣され、各寺院での行事などで法話をする和尚さんのことです。

(崇福寺では毎年二月の彼岸会の法要後、一時間の法話をしていただいています。)

試験の結果は残念ながら不合格でしたが、十五日間も寺を空ける事ができるのは、檀信徒のみなさまに支えられているおかげだと感じました。その恩に報いるよう、日々精進していきたいものです。

## 夏休み お経と坐禅の会

■七月二十一日(水)から

三十日(金)まで

■朝七時十分から八時十分まで

(ラジオ体操後)

■崇福寺本堂

子供・大人を問いませんので、檀信徒以外の方でも御参加下さい。子供さんやお孫さん、隣近所の方々もお誘い下さい。

子供の頃の体験は、必ずや人格形成に大きな影響を与えることでしょう!!



## 妙心寺派宗議会議員再任

平成十八年、思いもよらず宗議会議員に推挙され、何とか一期四年を過ごすことができました。責任上、もう一期務めさせていただきますことになりましたが、皆様方のお力添えがなければ、続けることも叶いませんので、宜しくお願い致します。(住職)

## ハイチ沖地震見舞金

ハイチ沖地震の見舞金を皆様から募金

させていただき、誠にありがとうございました。ビハール長

良という形で、日本ユニセフ協会へ、八千九百四拾六円寄付させていただきました。御報告申し上げます。(文責・住職)



(写真・住職)

## 住職実後記

山口県の「夢のみずうみ村」というアイデア施設は、バリアフリーではなく、バリアフリーとして注目されています。あえて階段や坂道の廊下を設け、何でも自分でやらなければならぬ状態にすることによって、車椅子の人が歩ける様になったりするそうです。自分で考えて行動することが大切なのです。